



テンジクメギ *Berberis pruinosa* メギ科

名古屋大学博物館友の会 友の会ニュースレター No.78 2025 年春号

会員随想

野鳥観察 ユニバーサル・ミュージアムを体験して
山田 薫

私の野鳥観察は、鶴舞公園のカワセミから始まりました。2020 年の秋、モミジの枝から小魚を狙って池へダイビングする青い背とオレンジ色の腹は、日差しを受けて輝いていました。

昨年 5 月、名古屋大学博物館主催「夏鳥をみよう 2024」に参加しました。「本企画は、ユニバーサル・ミュージアムの一環により開催いたします」との案内がありました。

始まる前に 5～6 人ずつの班に分かれます。視覚障がいのある人となない人が一緒です。少人数の班は、「好きな鳥は？」と鳥談議に花が咲きました。

最初に「安全が第 1」と注意事項の説明を受けて、野鳥観察（フィールドワーク）と標本観察・触察（ワークショップ）を体験しました。

①野鳥観察：名古屋大学キャンパスを散策しました。姿はなかなか見えませんが、オオムシクイの地鳴き「ジジッ、ジジッ」を聞き取れて感無量です。

②標本観察：ハシブトカラスは全身黒光りして目が可愛い。見慣れているカラスよりも大きいですが、どう猛な感じはありません。3 種類の羽根がどの部位かを探ります。細長く先が斜めの羽根は初列風切、小さめで木の葉型が次列風切、長い長方形は尾羽です。初列風切を見て羽根ペンを思い出しました。



初列風切



尾羽



触察を体験しています

③標本触察：触察体験は初めてです。目で見て分かったつもりと「野生動物」「壊してはいけない」先入観から、フワフワの身体に、そっとしか触れられません。視覚障がいのある人は丁寧に触りながら形や硬さを体感しているようです。羽根に付けられた形の違う黄色いテープ(▲、■、●)をヒントに、どの羽根がどの位置にあるのかを調べています。その触察の仕方に思わず見入ってしまいました。

最後に、広瀬浩二郎国立民族学博物館教授から「触察は『感じる、考える、歓迎する』が大切です」とアドバイスをいただきました。お人柄に惹かれて読んだ著書ではユニバーサル・ミュージアムを目指す南山大学人類学博物館が紹介されていました。

今回の企画に参加して、「触って楽しみたい」「体で感じる感覚を大事にしたい」と思いました。

現在、名古屋市科学館では「特別展『鳥』」が開催されています(6 月 15 日まで)。体験を豊かにするために、じっくり観察や触察をすることから始めていきます。

「友の会の集い」今年は書面総会で

昨年は博物館講義室に集まって、ティエラブランカのミニコンサートを楽しみ、総会も行いました。今年は、書面総会にして、皆様のご意見と共に友の会の活動を進めていきたいと思ひます。

7 月のニュースレターで議案書、会計報告をお知らせしますので、同封するはがきで諸否をお寄せください。ご意見もどうぞ。

友の会への要望などはメールまたは文書で、いつでもお寄せください(4 頁目に宛先あります)。

万葉の花 16

ミツマタ

三矢保永

春^{さきくさ}されば まず三枝の 幸^{さき}くあらば 後^{のち}にも逢^あわむ

な恋^{わぎも}そ吾妹

柿本人麻呂 万葉集巻十 1895

大意 春になると、まっ先に咲く三枝の名のように、無事にながらえれば、いずれのときにか、また逢うこともあろう。そんなに恋い焦がれないでくれ。愛しい人よ。

注 この歌は、“まず咲く”と“三枝”の掛詞、および“まず咲く三枝の”があとに続く“幸くあれば”の序詞、という複雑な構文になっています。三枝には、十指に余る諸説があります。有力な候補として、“ミツマタ”と“ササユリ・ヤマユリ”があります。“さく”の意味を“咲く”にとると前者、“裂く”にとると後者になります。ミツマタは、大陸から伝来した植物で、万葉時代に存在したか、たしかではないようです。ユリは、花卉が裂けるように開くので、咲き方を表してはいますが、開花時期がやや遅すぎます。情緒的にはササユリがふさわしいと思いますが、現在ではミツマタが優位のようです。

参考文献 1：山田卓三 万葉植物事典 北隆館

参考文献 2：中西進 万葉集全訳原文付 講談社文庫



撮影 写真サークル 三矢保永
撮影地 滋賀県 高畑山

会員随想その2

石と日本史の話

山田富久

石にはまったく興味がなかった。知っていたのは、堆積岩、火成岩、変成岩の3分類くらい。堆積岩には、砂岩・泥岩・・・？ウーん思い出せない。

数年前、犬山橋近辺の木曽川河畔で見られるチャート（堆積岩の一種）について、足立守先生のお話を伺った。わかりやすいし、面白い。

チャートの何が面白いのか？ まず、スケールが大きい。億年単位。日本の歴史に興味があるが、数十年～百年単位の変化だ。日本史が小さく見える。いや、相対化できる。次に、エビデンスが明確だ。目に見える化石から、電子顕微鏡で見る放散虫などの微化石。年代を測定するための、同位体を利用した測定方法や測定機器の開発の経緯も興味深い。

チャートに含まれる放散虫の年代同定が付加体理論の構築へ、さらに日本列島形成の解明やプレートテクトニクスという考えへと発展する、という壮大なスケール感がたまらない。

身近には名古屋大学博物館の展示があり、博物館主催の「地球教室」がある。地球教室の例としては、新城市にある鳳来寺山近くの川での松脂岩（しょうしがん）探しに参加した。黒っぽいガラス質の火山岩で、愛知県の石に指定されている。このようにフィールドワークによる現地現物を繰り返し、石の見分けが少しできるようになってきたことがうれしい。

と書くと石オタクのようだが、そうではない。好きなのは日本の歴史だ。特に、産業遺産や戦争遺跡に興味がある。戦争遺跡の例では、今年の一月に豊田市の鞍ヶ池（山地）に、太平洋戦争時、陸軍の弾薬を疎開させた場所を探しに行った。疎開先である横穴を見つけるには、地形や地質を読める必要がある。横穴の適地はどこだ。（続く）

友の会会費納入の報告

松本晃子

3月末までの会費納入者数：154名（前納者含む本会員）

今年度も会費を納入いただき、ありがとうございました。また、4名（家族会員1名を含む。）の方に新規入会いただきました。これからもうろしくお願いいたします。

**ボラン
ティア
募集**

友の会では随時ボランティアを募集しています。

ニュースレターの発送など、一緒に活動しませんか？

ご希望の方は友の会事務局までお問合せください。Eメール：hakubututomo@gmail.com

Artist Earth 地球は芸術家 28

ガーネット (garnet)

足立 守

写真左下は 1 月の誕生石の赤紫色ガーネットの結晶です。ガーネットは変成岩・花崗岩・火山岩などに比較的良好に見られるので、珍しい鉱物ではありません。ガーネットは暗褐色～赤紫色で鉄が多くカルシウムに乏しいものと淡い黄緑色でカルシウムを多く含むものの 2 つに分けられます。地下で変成岩ができる時には、カルシウムに乏しいガーネットは変成度の上昇（より高温・高圧環境になる）とともに鉄の量が少なくなりマグネシウムが増加します。それに伴ってガーネットの色も赤みが強くなります。

さらにマグネシウムが多くなるとシャクナゲのようなピンク色になりますが、マグネシウム 100% のガーネット（パイロプ）は天然には存在しないと長い間考えられてきました。しかし 1984 年にフランスのショパンがフランス・アルプスで純粋なパイロプを初めて発見し、コーサイトという石英の高圧鉱物と共存していたことを明らかにして、世界中の岩石学者を驚かせました。理論上では存在しても、それまで未発見だった鉱物が天然で見つかり、超高压変性作用の研究が大きく進展しただけでなく、アルプス山脈の形成メカニズムの解明にも多大な貢献をしました。ガーネットはすごい！

ダイヤモンドの母岩のキンバーライトという石には鮮やかな赤色のガーネットが含まれています。この赤いガーネットはダイヤモンド探しに古くから使われてきました。ダイヤモンド探査の第一段階は川砂を調べてキンバーライトに特徴的な鉱物の有無を判断することです。この時、産出量の少ないダイヤモンドを探すのではなく、母岩の中でダイヤモンドと共存し産出量の多い赤色ガーネットの有無が重要な情報になります。「たかがガーネット、されどガーネット」の世界の話ですが、ガーネットを使うダイヤモンドの探査法は簡単で有効な方法です。



鉄の多いガーネットの結晶
(横約 3.5cm、Wikipedia より)

ガーネットは等軸晶系という結晶系の鉱物なので、コロッシとした形が特徴です。多くは 12 面体の結晶ですが、6 面体（立方体）、8 面体、24 面体なども存在します。鮮やかな緑色のカルシウム・ガーネットはデマントイド (demantoid) と呼ばれていますが、写真の左上には立方体の結晶が見えています。見慣れた赤褐色のガーネットとは全く違うデマントイドの色は不純物のクロム (Cr) によると言われています。希少性が高く人気のある宝石になっています。



デマントイドガーネット
(写真の横約 5cm、Wikipedia より)

ガーネットは英語では garnet ですが、ドイツ語では Granat、フランス語では grenet、スペイン語では granate、イタリア語では granato で、すべて gran から始まります。それはガーネットの語源がラテン語でたくさんの粒（種子）を意味する granatus だからです。この granatus は英語の grain（粒子）、granite（花崗岩、粒子がよく分かる石）、pomegranate（ザクロ）など“粒”が特徴の言葉の語源にもなっています。最近あまり使われませんが、一昔前はガーネット (garnet) の和名はザクロ石が一般的でした。ザクロの小さな赤い粒の集合体が赤紫色のガーネットに似ているので分かりやすい和訳だと思います。

調べたことはないのですが定かではありませんが、語源から考えると garnet は元来は granet（発音はグラネット）で、使われている間に g の後の r と a が入れ替わってしまった可能性が大きいと思っています。

ガーネットは硬い鉱物（モース硬度=6.5～7.5、多くは 7.0 以上）なので、宝石になれなかった結晶は研磨剤として使われてきました。万葉集や古代史にも登場する奈良県の二上山はガーネットでも有名です。二上山の石英安山岩にはガーネットが含まれているので、麓の鉱山では風化安山岩から分離したガーネットを集めて、1970 年頃までサンドペーパー（紙ヤスリ）の原料にしていました。

野外観察園 2025 春

吉野奈津子

この春の気温の変化には植物もついていけなかったようで、いつもは2月の終わりごろから咲いているボケも今にも咲きそうなままストップし1か月待ち。3月下旬にようやく満開です。そして4月1日現在、観察園のコブシはまだ咲かず。つぼみが見えるような気はしますが数は明らかに少なそう。夏の暑さにダメージを受けたのでしょうか。

昨年の夏は大きなアベマキ（どんぐりのできる木の一種）の木の根元にサルノコシカケの仲間のキノコがよく発生しました。これはあまりありがたない豊作で、生きている木にキノコが生えているというのは病気に侵されている証拠です。木の養分を吸ってキノコが大きくなるに従い木は弱ります。やがて外から見ても変わりはないけれど、中はスカスカ、なんてことも起こりうるのです。かつては造成地でもなかつたどんぐりの小道ですが、今では木々が生い茂り、体育館の屋根の上に覆いかぶさるほどの大きさになっています。

今回はキノコの生えたアベマキ6本の伐採を行いました。いつもは造園屋さんに処分をお願いしていますが、今回は極力材を利用したいと思い、ベンチを作っていただきました。突然の申し出にも関わらず快く引き受けてくださり、即席にしてはとっても素敵。まだ乾かし中ですが、切り株は病気に侵されているところもよく観察できます。細かい枝を使ってバイオネストという堆肥枠も作ってみました。ネスト(nest)とは「巣」という意味ですが、鳥の巣のような出来栄えに自画自賛。コンパネ板で作成する枠よりもおしゃれで材料費もかからずいいことづくめ。中に入って写真を撮ってみたいくなります。新たな「映えスポット」、学内にも作られる予定ですので散策がてらぜひ探してみてください。



オニシバリ *Daphne pseudomezereum* A.Gray
ジンチョウゲ科



伐採木で作ったベンチ



バイオネスト

名古屋大学博物館友の会ニュースレター 2025年4月21日発行

名古屋大学博物館友の会 〒464-8601 名古屋市中種区不老町 名古屋大学博物館 気付

電話：052-789-5767（博物館事務室） F A X：052-789-5896（博物館事務室）

Eメール：hakubututomo@gmail.com アクセス：地下鉄名城線「名古屋大学」下車 2番出口

ホームページ：http://www.num.nagoya-u.ac.jp/fan

年会費 1000 円（4/1～3/31） 10/1～3/31 に入会した場合は 500 円（次年度は 1000 円）

家族会員制度あり（同居の家族1名まで年会費を免除）

<振込先> ゆうちょ銀行 口座番号：00800-8-166807 加入者名：名古屋大学博物館友の会

他銀行からの振り込み 店名〇八九（ゼロハチキユウ） 店番（089）当座 0166807